

## 子ども学専攻

### 教育理念・目標

人の人生をトータルにとらえ自立を保障・促進するための支援の理論化、体系化をめざす生活支援科学研究科の教育研究理念のもとで、子ども期の特性に即した支援の在り方を総合的に考究する。したがって、本専攻は、教育学・保育学を基盤に据えて、学校教育における効果的な学習指導の方法を探求すると同時に、子どもの学習活動を成立させるための前提となる子どもの生活実態と生活環境を射程に含め、子どもと家族への福祉的支援や臨床心理的支援、食生活や健康への支援等との関連において、子どもの成長・発達と教育のあり方を学際的に究明することを、目標として定める。

### 【学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）】

子ども学に関する高度な知識や技能を身につけ、教育保育の現場で活用しうるような課題発見力と探究力、問題解決能力を修得し、必修科目12単位、選択科目18単位、合計30単位以上を修得し、修士論文の審査に合格した者に、修士（子ども学）の学位を授ける。

### 【教育課程編成・運営方針（カリキュラム・ポリシー）】

#### 教育課程編成の方針

子ども学専攻は、保育・教育の質的高度化に資する専門的な知識と技能について研究し、現場での実践に応用する能力を育成するよう適切に科目を配置する。

1. 本専攻では、「基幹分野」に子ども研究の基盤を学ぶ「子ども学特論」を配置し、必修科目とする。また、子どもへの生活支援のあり方を学ぶ「子ども学実践演習Ⅰ（子ども支援の展開）」、子どもの教育現場における最新動向を学ぶ「子ども学実践演習Ⅱ（子ども教育の展開）」を「基幹分野」に配置して選択必修とする。
2. 選択科目として、子どもの教育や生活支援の方法を個別的観点から考究する科目を、「教育分野」「教科分野」「支援分野」に区分して配置する。
3. 小学校教諭専修免許状を取得できる課程を設け、教育学・心理学の基礎理論を深化して各教科の指導法を開発するとともに、学校現場の今日的課題に対応しうる高度な応用力、課題解決能力を育成する科目を配置する。

#### 教育課程運営の方針

本専攻では、上記1で明記した3科目を「基幹分野」とし、「教育分野」「教科分野」「支援分野」の各分野から、学生の目的意識に即して、最低1科目、合計7科目を選択して履修することを、履修モデルで明示している。

### 【入学者選抜方針（アドミッション・ポリシー）】

本専攻は入学選抜に当たって、専門分野の学理を探求したいと希望する者とともに、多角的な視点から実践研究を行うことを希望する者にも門戸を開いている。本専攻の入学者選抜にあたっては、以下の要件を満たすものを積極的に受け入れたい。

- (1) 子ども学系、教育系、保育系の学部・学科において教育学、保育学の専門教育を受け、さらに高度な専門職業人となるために知識・技能を深化させたいと希望する者。
- (2) 小学校、幼稚園、保育所、児童福祉施設等で子どもの教育・保育に従事し、さらに高度な専門職業人としての能力を磨きたいと希望する者
- (3) 子育てサポートセンターや学童保育、子育てNPO等で子育て支援事業等に参画し、子育て支援リーダーとしての専門的能力を身に付けたいと希望する者。
- (4) 子どもと子どもの教育、子育てに対して強い関心をもち、保育・教育分野における専門的知識と技能の習得のうえに、研究活動や実践活動を通して社会に貢献したいと希望する者。